

紙版 ハコブネ×ブックス 番外編

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。

ピカピカのぎろちゃん

佐野美津男



作者 佐野美津男
発行 2005年10月
ISBN 978-4835450841 ※普及版のコードです

原本は
1968年
あかね書房刊

投票コメント



review



特集

復刊ドットコムの軌跡と奇跡

fukkan.com

現在は書店流通していない絶版本や重刷未定本を読者のリクエストに応えて復刊させるウェブサイトで、復刊ドットコム。児童文学ジャンルでは、伝説のように語られてきた二十世紀の奇想の物語がいくつも復刊されました。子どもの頃に読んだ記憶があるけれど、あれは、夢の中で読んだ本だったのではないかな。あの本は本当に存在したのか。そんな自分の記憶をも疑うような幻の一冊を、もう一度手にしたいと願う、熱い要望が復刊ドットコムには寄せられていました。ここに紹介するのは、条理では説明できない特異な設定や、際だったストーリーが深い印象を与える特別な作品ばかりです。復刊を希望する投票コメントには、思い入れが熱く語られており、誰かの物語の思い出にもまたドラマを感じるので、自分もスタッフとして参加していた復刊ドットコムの軌跡と奇跡を語り、そして繋ぎとめたいと思います。

役所前のふん水広場に遊びに行こうとしていた小学生の女の子アタイは、警告する街宣カーや封鎖された歩道橋に、町が非常事態にあることを知ります。なにが危険なことが起きているのに、なにが起きているのかわからない。アタイのお父さんは「ピロピロ」で世の中が変わるのだと言いますが、詳しいことは教えてもらえません。ピロピロと反ピロピロの戦いが始まり、商店街では大人たちの手によってバリケードが築かれ、ふん水広場にはギロチンが設置されます。この町は一体どうなってしまうのか。読者の子どもたちの心を震撼させ、不安にする不条理な感覚に満ち溢れた物語です。閉鎖状況や、半端な情報伝達しかされない中で、子どもたちが内包している屈折した心理と心の闇の部分があらわになっていく展開に驚かされます。

ビビを見た！

作者 大海赫
発行 2004年1月
ISBN 978-4835440866

原本は
1974年
理論社刊

投票コメント



review



盲目の少年、ホタルに突然に与えられた七時間の見える時間。生まれつき失われていた視力を得たホタルは、この好機に自分が見たいものを探しにいきます。ホタルの目が見えるようになったと同時にホタルが住むニジノ市の全市民の目が見えなくなり、パニックが広がっていました。騒乱の中を逃げるホタルは、特急コガラシ号でツバキの芽のような色をした一人の少女に出会います。触覚があり、羽が生えている裸の少女。ホタルがビビと名づけた、その少女を探して、巨大な怪物のような大男が町を壊滅させながら特急に向かつて突進してきます。危機的状況の下、目が見える時間の終わりが迫り、ホタルは美を見極めることとなります。美しさを心に刻みつけ、有限の時間をおおいに活かした感涙に満たされる物語。心を奪い、胸を貫く衝撃作です。

ふたりは屋根裏部屋で

作者 さとうまきこ
発行 2013年4月
ISBN 978-4835449142

原本は
1985年
あかね書房刊

投票コメント



review



小学六年生の新学期を迎えようとするエリが引越した先は、大正時代に建てられた古い洋館。かつて洋画家の一家が住んでいたというお屋敷には、広い玄関ホールや暖炉、そして屋根裏部屋がありました。両親がでかけて誰もいないある日、大家さんから入ることを禁じられていた屋根裏部屋に通じるドアが開くことをエリは知ります。その時、エリはもうひとつの時間へとながらる扉をあけてしまったのです。この物語の現代である昭和五十九年とつながった昭和九年という近過去。そこには、暖炉の上に飾られた肖像画に描かれた少女、ルミナがいました。時間をこえたガールミーツガールの児童文学タイムファンタジー。明るくだけではないらしい少女時代の微妙な心の動きを象徴する、洋館に射す影と仄かな光のコントラスト。蠱惑的な浪漫に満ちあふれた物語です。

光車よ、まわれ！

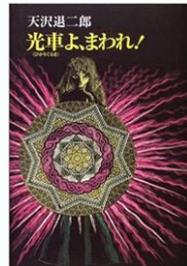
作者 天沢退二郎
発行 2004年8月
ISBN 978-4835441306

原本は
1973年
筑摩書房刊

投票コメント



review



小学校の教室で授業中に見てはならないものを見てしまった六年生の一郎。迫りくる闇の力の脅威に気づいてしまった一郎は、もはや平穏な日常を送ることができなくなり、この世界に侵攻しようとする論んでいる「水の悪魔」その力を得て怪物に化す三人の同級生たち。彼らと戦うために、三つの光車を探し龍子のグループの仲間にも加わります。第三勢力、土曜勉強会を率いる学級委員の吉川もまた光車を奪おうと画策し、より混乱は極まります。個にして全である中谷老人が念力で送ってくる地霊文字の力を借りて、一郎たちは悪の力に立ち向かいます。子どもたちの唐突な死や、疑問符が解消されない奇抜な展開に翻弄されたい奇想のファンタジーです。

review



看護婦のママが夜勤の間、ひとりぼっちになる娘のユリアのために雇われたのが「夜のパパ」。ひっそりと静かな夜の時間によってく秘密めいた雰囲気漂う印象的な青年、夜のパパとユリアの物語。復刊された異色の海外作品にも注目ください。



夜のパパとユリアのひみつ



夜のパパ (マリア・グリーベ) 原本は1980年借成社刊

紙版「ハコブネ×ブックス」番外編

2020年5月31日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト ハコブネ×ブックス (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。

© tomoostretch